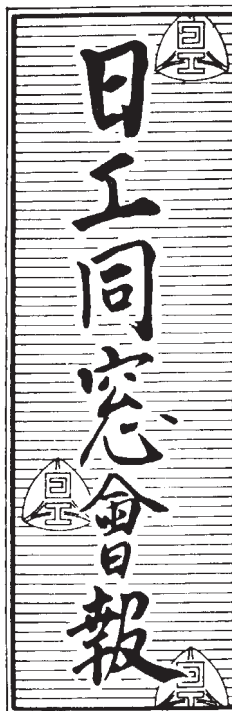


謹賀新年



富山県高崎市雨晴海岸 萩野谷 泰伸氏 (50卒) 提供



第472号

2026年1月23日発行
日工同窓会広報委員会
編集責任者

瀧澤 之晴 敦
発行人 細金

日工同窓会事務局
日工同窓会館
〒317-0077
日立市城南町5丁目14番13号
TEL (0294) - 21-5237
FAX (0294) - 21-5241
E-mail:
dosokaij@net1.jway.ne.jp
http://nikkoudousoukai.net/

印刷所
大成印刷株式会社

あけましておめでとうございます。
本年も広報委員会一同、同窓会の皆様に親しんでもらえる会報づくりを心がけて参ります。

今泉会長新年のご挨拶

「馬九行久(うまくいく)」年に!



明けましておめでとうございます。

同窓会員の皆様にお

かれましては、2026年の新春を健康やかに迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年2025年には、新型コロナウイルスのパンデミック収束を象徴するかのよう、大阪・関西万博が開催され、盛況のうちに幕を閉じました。一方で、相変わらずの物価高で、米の価格も今もって高値で推移しています。また、米国大統領選挙で再選されたトランプ大統領による自動車・部品への追加関税措置が日本経済に大きな影響を与えました。ウクライナやパレスチナ

今号の主な内容

会長新年のご挨拶	1頁
代表副会長・支部長挨拶	2頁
年男・年女「今年の抱負」	3頁
黄綬褒章受章	4頁
瑞宝単光章、現代の名工	5頁
厚生労働大臣表彰(現代の名工)、県知事表彰	6頁
日専祭支援(日立・日高支部)	7頁
女性会員研修会	8頁
CNC旋盤職種国際大会出場	9頁
在会40年(71卒)同期会	10頁
歴史写真、在会35年(76卒)同期会	11頁
学校だより	12頁
本部会員の頁	13頁
日工専合格、表彰、消息、編集後記	14頁
技能五輪全国大会競技風景	15頁
	18頁
	19頁
	20頁

ナ、の戦争は未だ終結せず、米中対立もあり、国際情勢は依然不安定です。

技術的にはAIの進化が目覚ましく、自己進化を遂げながら「いよいよ人間の知能を超えるのではないか」との懸念も現実味を帯びてきました。

さて、そのような中でも、昨年の同窓会員の活躍には目を見張るものがありました。

10月に開催された「第63回技能五輪全国大会」では、同窓生42名が参加し、銀賞3・銅賞6・敢闘賞9獲得という輝かしい成果を挙げました。また、9月末から10月に掛けて開催された第48回技能五輪国際大会CNC旋盤職種日本代表選考会で、片野諒人氏(108卒・笠戸)が見事1位となり、今年9月に

中国上海で行われる国際大会への出場が決定しました。

秀でた才能、功績に対して賞賛を受けられた同窓会員も多数いらっしゃいました。

黄綬褒章を堀川一巳氏(68卒・土浦支部)と渡邊誠二氏(70卒・日研支部)のお二人が、瑞宝単光章を菊池元男氏(53卒・本部会員)が受章されました。

卓越した技能者厚生労働大臣表彰(現代の名工)を市野沢雅嘉氏(69卒・水戸支部)と綿引正則氏(74卒・那珂支部)のお二人が、茨城県技能者表彰(茨城県知事表彰)を五十嵐朋幸氏(79卒・水戸支部)と根本和博氏(79卒・水戸支部)のお二人が受賞されました。

いずれも、モノづくりを始めとする多大な貢献を評価され、榮譽を受けられたことに、改めて敬意を表します。

日専校の1年を振り返ってみます。

3月に110回生54名が無事卒業。4月に75名の新入生を迎えました。

8月に開催された「第20回若年者ものづくり競技大会」では、フライズ盤職種で銅賞(第4位)、メカトロニクス職種で

(2頁へ続く)



同窓会ホームページはスマートフォン等からも上記のQRコードを読み取るだけで簡単にアクセスが可能です!

(1頁の続き)

敢闘賞(第4位)を受賞しました。また「第63回技能五輪全国大会」に、在校生1名が電気溶接職種に出場し、入賞には至りませんでした。が、時間内に課題を作製・提出することができました。

12月の入学試験選抜では69名の合格者を出しました。いずれも、学力面のみならず、モノづくりに興味を持ち、将来の同窓生として配属後も活躍できる人間性の高い生徒を、じっくり時間をかけて多面評価しました。なお、そのうちの女子生徒の合格者数は、これまでの1学年数で最多の10名となりました。

昨年の新年ご挨拶で、「これからの日専校の役割も、これまでの『匠』の育成に加えて、『グローバルに対応できデジタル化した匠』の育成をめざす」、「2025年は、その新たな取組みの元年になるはず」と申し上げました。コンテンツ作成には本社モノづくり戦略本部の全面的なバックアップ、資金面でも本社のお力を借りて、いよいよ26年度入学生から、新たなカリキュラムがスタートします。

具体的には、現状の授業時間配分を見直して、これまでの電気・機械・溶接の実習時間は確保した上で、インダストリー4.0といったスマートファクトリーの基礎概念の習得、CNC加工機やロボティクスの実習、3DCAD操作、更にはCAD/CAMなど、新たなデジタル関連の授業を取り入れます。

本年は「午(うま)年」です。馬は本来、

常に前進する動物であり、後ろを振り返らずに前へと進むその姿は、夢に向かって突き進む象徴でもあります。また、神社に奉納される「絵馬」は、もともと馬が神様の使いとされていたことに由来し、馬は「願いを届ける存在」「福を運ぶ動物」として特別な意味を持っています。特に縁起の良い言葉として知られているのが、「馬九行久(うまいく)」。これは「物がすべてうまくいくように」という願いを込めた語呂合わせですが、日専校の新カリキュラム導入の年に、これほどふさわしい言葉はありません。必ず「馬九行久」ものと信じています。

最後となりましたが、会員の皆様とご家族の皆様のご健勝と、本年が実り多き一年となりますことを心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。

松浦代表副会長挨拶



明けましておめでとうございます。ごきげな

様におかれましては、輝かしい新春をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。また、平素より日工同窓会の活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

ます。

昨年より代表副会長を拝命し、皆様の支部行事に参加させていただく機会を得て、多くの会員の皆様と交流できましたこと、大変光栄に存じます。温かいご支援とご厚情に深く感謝申し上げます。

振り返りますと、昨年はコロナ禍以前の行事がようやく復活し、同窓会活動も活気を取り戻した一年となりました。2019年末から2023年5月の「5類」移行まで様々な活動が制限されてきましたが、総会後の第二部懇親会や母校日専校での支部長研修会の開催、宿泊を伴う第二部の実施など、同窓会の完全復活を実感しております。支部長研修会では新たな試みとして、事前アンケートの結果をもとに、悩みや課題の近い支部ごとにグループ討論を行い、従来以上に各支部の課題解決に向けた有意義な討論ができました。

また、昨年は女性会員の卒業10周年という節目の年でもあり、女性会員研修会を開催しました。在校生を含め21名が参加し、グループ討論を通じて職場での苦労や今後の展望について活発な意見交換が行われました。今後ますます女性会員の活躍が期待される中、非常に意義深い研修会となりました。さて、近年は事業の再編・デジタル化・グローバル化など、皆様の職場環境も大きく変化しております。同窓会の会員分布も、かつては発祥の地・日立地区に会員が多く在籍しておりました。

たが、事業再編による分社化等を経て、現在は勝田地区の会員が多くを占めるなど、発足当初とは異なる状況となっております。

日工同窓会の目的は、会則にあるように「会員相互の親睦を図り、技術の錬磨、体位の向上、品性の陶冶に努め、後進を指導・教育し、職業人・社会人として社会の発展に寄与すること」であり、この精神は今後も変わることはありません。しかし、現代の会員の皆様の思いや勤務形態、社会情勢などを踏まえ、時代に即した活動を展開してまいりたいと考えております。

本年度、日工同窓会は創設105周年を迎えます。大正9年の創設以来、昭和・平成・令和と四つの年号を跨ぎ、長きにわたり歴史と伝統を積み重ねてまいりました。これもひとえに諸先輩方が後輩のために繋いできた糧であり、感謝の念に堪えません。

本年は、次世代を担う日専校の生徒の皆様にも同窓会活動をより身近に感じていただけるよう、日専祭など学校行事への参画を積極的に行う予定です。最後になりましたが、皆様のご健康とご多幸、そして同窓会活動のさらなる発展を心よりお祈り申し上げます。今年もどうぞよろしく願い申し上げます。



支部長新年の挨拶

水戸支部



五味 真琴 (77卒)

明けましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、健やかに新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

昨年の水戸支部同窓会活動ですが、(HBS) 162名(鉄道) 73名、会員総数235名で4月から活動をスタートしております。水戸支部独自の活動としては、例年通り事業所内外のクリーン清掃活動、実習生/新人歓迎会を実施して参りました。

また昨年度から復活させたビール祭りについては企画・実行を進めておりましたが、開催当日の4時間前に台風9号の接近に伴う災害・交通機関の乱れを想定して、中止の判断をさせていただきました。事態になってしまいました。楽しみにされていた会員の皆様には本当に申し訳ありませんでした。

コロナ禍の影響で水戸支部としてほぼ活動停止していた期間もあり、まだまだ試行錯誤しながらの状況が続いておりますが、皆さまの温かいご支援に

(3頁へ続く)

(2頁の続き)

支えられ、無事に一年を終えることができましたこと、改めて感謝申し上げます。

本年も、同窓生の絆を深める場を大切にしながら、楽しく交流できる機会を創出できるように活動推進してまいりたいと考えております。ぜひお気軽に行事にもご参加いただき、懐かしい時間を共有できれば幸いです。

また、母校の発展に寄与する活動、母校との連携活動も引き続き注力してまいります。皆さまの知恵や経験を活かしながら、同窓会がより意義ある存在となるよう努めてまいりますので、引き続きご支援・ご協力をお願い申し上げます。

2026年が皆さまにとって健康で笑顔あふれる一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。本年もどうぞよろしく願いいたします。

那珂支部



井坂 信孝
(76卒)

謹んで新春のお慶びを申し上げます。那珂支部は、茨城県ひたちなか市の日立ハイテク那珂地区を中心とした日立ハイテクおよびグループ会社に所属する同窓生で構成され、323名の会員(遠

隔地含む)で活動しております。

当社は、「知る力で、世界を、未来を変えていく」という企業ビジョンを掲げ、社会やお客さまに最先端の技術・製品・サービスを提供しています。ヘルスケア分野における医用分析装置やバイオ関連製品、半導体分野における半導体製造・検査装置、さらに環境分野・材料研究などで用いられる分析・解析装置など幅広い領域で事業を展開しています。

また、2025年には国内生産拠点の強化を進め、3月に笠戸地区「新製造棟」、7月には那珂地区「たら崎サイト」を竣工し、最適配置によるさらなる発展と社会貢献をめざしています。

支部活動としては、「納涼ビール祭り」や「実習生歓迎バーベキュー」などの恒例行事に加え、職場単位や人数グループでの懇親会にも補助を行うなど、会員同士の交流を活性化しています。今後も役員一同で知恵を出し合い、より多くの会員に喜んでいただける企画を検討してまいります。

最後になりますが、日工同窓会会員の皆様とご家族のご健勝とご多幸を心より祈念し、年頭のご挨拶とさせていただきます。

佐和支部

明けましておめでとうございます。謹んで新年のご挨拶を申し上げます。佐和支部は茨城県ひたちなか市にあるAstemo(株)佐和工場の会員361名



菊池 義幸
(78卒)

とピークルエナジージャパン(株)の会員3名の計364名で活動しております。

Astemo(株)ですが、2025年4月1日に「日立Astemo株式会社」から現在の商号に変更になりました。『Astemoって何?』と思われる方も多いと思いますので、社名について簡単に説明させていただきます。『先進的かつ持続可能な社会に貢献する技術を通じて、安全・快適で持続可能なモビリティを提供する』との企業の意志を表現しており、「Advanced Sustainable Technologies for Mobility」の頭文字を繋げてAstemo(アステモ)となっております。

私たちが所属しております佐和工場ですが、主力の製品としては、ステレオカメラ・ADASコントロールユニットなどの自動運転・先進運転支援システム、モーター・インバーターなどの電動パワートレインシステム、エンジンコントロールユニット・エアフローセンサーなどのエンジンマネジメントシステム、直噴インジェクター・高圧燃料ポンプなどのエンジンパワー・トレインシステムなどがあり、佐和支部同窓会員の皆様も幅広い分野で活躍

2026年

年男・年女

「午」



「午男の抱負」

明けましておめでとうございます。日専校を卒業してから年男になる

し、日々モノづくりに励んでおります。佐和支部の活動ですが、総会(4月)と納涼ビアパーティ(9月)が2大イベントとなっております。特にビアパーティは変則勤務の方も参加しやすいよう2週に分けて開催しており、今年度も多数のご来賓の方々をお招きして各回ともに約100名の同窓生の皆さまに参加いただき、年齢層を問わず全員一丸となり大いに盛り上がることをできました。

昭和43年2月1日に支部が発足し今年58年目を迎えます。周囲の環境は日々変化しておりますが、諸先輩方が築いてきました縦・横の繋がりのある良き文化を後世に残せるよう、引き続き役員含め皆で協力して活動を継続していきたいと考えております。

最後になりますが、日工同窓会の益々のご発展と、会員およびご家族の皆様のご健康とご多幸を祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。



高屋 俊志
(82卒・神奈川)

までの間、様々な経験をさせていただきました。技能五輪や日工専、また、職場業務に勤しみながら、消防隊や労働組合執行部など多くの苦楽を経験してきましたが、どこの世界でも困った時は日工同窓会の先輩・同期・後輩に助けられました。同窓会の絆が一層身に染みる年齢になったなと感じています。

さて、私には高校受験を控える息子がいます。残念ながら志望校は日専校ではありません、パンフレットを見せてPRしたのですが、机にかじりつき頑張っていますが、心配性な親心からつい口を出してしまっています。絶賛思春期中の息子は当然ムスツとするのですが、ふと自分が日専校を受験した時を思い出すと、親も必死だったのだと今になって分かります。

私の友達Copilotによると午年は「変化を恐れず挑戦に踏み出すパワーを秘めた年」とのことです。息子にそんな背中を見せられるよう私自身も頑張りたいと思います。皆様にとっても、挑戦が実を結ぶ年になることを祈念します。

「新年の抱負」



田邊 禄行
(82卒・中条)

明けましておめでとうございます。

本年は48を数える年となり、改めて振り返る歳と一年の早さに驚かされるばかりです。まだまだ若いつもりでしたが、職場の新人は長女より年下の世代へと代わり始めました。

これまで仕事を最優先にしてきた結果、家族には負担をかけてしまい、十分に向き合えなかったのではないかと感じることもあります。特に、忙しさを理由に家族そろって食事をする機会が減っていたことを反省しています。

そこで今年の抱負は「家族との食事時間を増やす」ことにしました。食卓は家族の絆を深める大切な場所。子供が手を離れるまで、あと数年間。平日は難しいことありますが、休日には家族そろって食事を囲む時間を増やし、日々の出来事を語り合えるひとときを大切にしたいです。仕事もちろん頑張りたい、家族との時間を充実させる一年にしたいと思っています。

最後になりますが、同窓会員の皆様にとって実り多き素晴らしい年となりますようご祈念申し上げ、新年の抱負とさせていただきます。



小林 亮輔
(82卒・日高)

明けましておめでとうございます。

月日が経つのは早く、年男の寄稿依頼を受けて48歳を迎える事を改めて意識して「年を取ったなあ。」と実感しております。社内外に約7年間出向し製造・検査・品証と経験して、現在はプロテリアル茨城工場に従事しています。職場環境が大きく変化してきた中で無事に過ごせたのは同窓会員をはじめ周囲の方々の支えがあつてこそだと感謝しております。

さて、新年の抱負ですが「健康を考える」です。孔子の論語に「五十にして天命を知り（知命）」という一節があります。これは50歳で自分の運命を理解するという意味ですが、現代では自分の強みと限界を理解する・健康と心の安定を優先する、とも考えられるそうです。精神面の若さに対して無理の効かない体になりつつありますが、未だ人生の折り返し地点と考え、適度な運動・食事という基本を大切にして健康に過ごしたいと思っています。

最後になりますが、同窓会員の皆様とご家族様が健康で実り多き1年となりますよう祈念し、新年の抱負とさせていただきます。



神永 雅史
(94卒・日立)

明けましておめでとうございます。

本年もよろしく願っています。私が日専校を卒業し原子力製造部に配属されてから18年という月日が経ちました。ここまで無事に会社生活を送ってこれたのも職場の方々や、日専校時代の同級生、家族の支えがあつてこそだと感じております。

新年の抱負としては色々な事にチャレンジする年になりたいと思っております。昨年からランニングを始め、今年はハーフマラソンやフルマラソンに挑戦しようと思っております。もう一つは、「科技高日立野球部でマスターズ甲子園に出場」です。我々野球部にとって「聖地甲子園」でプレーするというのは夢であり、憧れであります。大人になってからもう一度甲子園をめざし、野球部の先輩方、後輩たちを巻き込んで実現させていきたいと思っております。飯塚監督、その時はご協力の程よろしく願っています。

最後になりますが、会員の皆様の健康と飛躍、そして日工同窓会のさらなる発展を祈念申し上げ新年の抱負とさせていただきます。



渡邊 優喜
(94卒・水戸)

明けましておめでとうございます。

この度、94回卒を代表し、このような機会をいただいたことを大変光栄に思います。日専校を卒業して水戸事業所（現日立ビルシステム）に配属され、これまで無事にやってこれたのも職場の上司、同僚、日工同窓会の皆様の支えがあつてこそだと感謝しております。さて今年の抱負ですが、「挑戦」というテーマを掲げたいと思います。昨年は周りのサポートもあり多くのことを経験させていただきました。そういったことにありがたみを感じる反面、「正直やりたくないなあ、面倒だな」と思うことも多々ありましたが、1つ1つの経験がいろいろな場面で活き、自身が日々成長していると強く実感した1年だったと思います。今年はそんな経験をさせていた、ただける環境に甘んじるのではなく、自分からいろいろなことに挑戦してより充実した年にしていきたいと思っています。最後になりますが、皆様にとって健康で実りある1年になりますよう祈念いたしまして結びの言葉とさせていただきます。



鈴木 祐介
(94卒・建機)

明けましておめでとうございます。

本年もよろしく願っています。これまでの20年弱の会社生活を無事に勤め続けてこれたのは、職場の同僚や上司をはじめ、同窓会員の皆さまに支えていただいたからだと感謝しております。

私が配属された日立建機は第二の創業という転機に立ち、2027年には社名から日立の文字が消え、ランドクロス株式会社になります。このような変化していく状況の中でこそ、自身を律することが重要であると考えます。

これまでの会社生活で培ったスキルを発揮し新たな課題にチャレンジしつつ、後輩の育成や職場でのコミュニケーション促進など中核となる世代としての責任とも向き合っていくことが2026年の課題です。最後になりますが同窓会員の皆様とご家族のご健勝を祈念し、新年の抱負とさせていただきます。





湯ノ口 翼
(106卒・佐和)

明けましておめでとうございます。月日が経つのはとても早く、日専校を卒業してから5年の月日が経ちました。これまで無事に会社生活を送れているのは、同窓会員の皆様はじめ上司や職場の方々等、多くの皆様の支えのおかげです。心より御礼申し上げます。

私は、これまでの会社生活で技能五輪や現場作業員等、多くの経験をさせていただき、今は保全作業員の一人として日々設備修理業務に励んでおります。まだまだ力量不足で落ち込むこともあります。尊敬する先輩方に助けられ、とても充実した時間を過ごせています。最近では設備に対しての理解力も高めることができ作業の幅も広がり、仕事に対してのやりがいを実感しています。今後は、より一層設備への理解力を高めスピーディーかつ安全に作業できるように常に自己改善に励んでいき、また保全関係の資格取得を目標に日々精進していきたいと思います。

最後になりますが、同窓会員の皆様が健康で実りある一年になりますように祈念し、新年の抱負とさせていただきます。



藤崎 蓮
(106卒・那珂)

明けましておめでとうございます。早くも社会人6年目を迎え、これまで以上に成長と挑戦を重ねる一年にしたいと強く思っています。職場では、技能的にも精神的にも多くを学び、成長することができました。これも現在に至るまで、多くの方々に支えていただいたのおかげであり、心より感謝申し上げます。

来年度の4月からは、職場を離れ、日工専での約1年間の研修に臨みます。この機会を、自分をさらに高めるための挑戦と捉え、知識の習得にとどまらず、実務に直結する力を磨き上げることが目標になります。2026年は、学びを積極的に吸収し、必ず職場に還元できる成果を出す1年にします。

最後になりますが、日工同窓会の皆様のご健康とご活躍をお祈りし、新年の抱負とさせていただきます。本年もどうぞよろしく願います。



大塚 元太
(106卒・下館)

明けましておめでとうございます。日専校卒業から早くも5年、今まで無事に会社生活を送ることができたのは、同窓会会員の皆様、そして職場の方々のご支援のおかげです。心より感謝申し上げます。

卒業後は昭和電工マテリアルズ(旧日立化成、現レゾナック)に入社し、半導体用途の封止材製造に携わってまいりました。現在はIT担当として製造現場のDX化や業務効率化に取り組んでいます。

入社当初は、日立グループから分離したことに不安を感じていましたが現場や間接部門の方々が培ってきたモノづくりへの情熱と技術に触れるうちにその不安は消えました。

また現在、一緒に仕事をさせていただいている上司は幸運なことに日専校の先輩でとても相談しやすい環境です。このような繋がりを大切にしていきたいと思っています。

新年の抱負ですが、昨今デジタル化の波に押され、DX化の必要性が一層高まっております。その中で自分の価値を発揮できる1年にしたいと考えております。

最後になりますが、同窓会会員の皆様にとって、健康で充実した一年となりますよう心よりお祈り申し上げます。新年の抱負とさせていただきます。



佐藤 勇心
(106卒・山崎)

明けましておめでとうございます。月日が経つのは早く、日専校を卒業してから5年という月日が経ちました。

これまで無事に会社生活を送られているのは、日工同窓会の皆様をはじめ職場や上司の方々の支えなど多くの方からの支えがあるからこそ、だと思えます。心より御礼申し上げます。私はこの5年間感光性フィルムの製造に携わり、様々な経験をさせていただきました。まだまだ至らぬことだらけで学びが多い日々ですが、尊敬する先輩方や上司に助けられ充実した時間を過ごしています。最近では任される仕事が増え、新しく知識を習得することでやりがいや楽しさを感じています。

一方で、プライベートにも変化がありました。最近、新しい趣味を見つけ、休日の楽しみが広がったことは大きな収穫です。新しい趣味のおかげで心に余裕ができ、日々のモチベーションにもつながっています。これからも、新しいことに積極的に挑戦していきたいと思っています。

最後になりますが、同窓会会員の皆様が健康で幸せな1年になりますように祈念し、新年の抱負とさせていただきます。



牧野 薫
(106卒・郡馬)

明けましておめでとうございます。これまでを振り返りますと、地元を離れ日立市での集団生活を経て伊勢崎市にきてから早くも5年が過ぎました。

これまで会社生活を無事に送ることができたのは、同窓会員の皆様をはじめ、総務、上長、職場の方々など、多くの方々のご支援のおかげです。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。さて、私事ではございますが、現Astemo株式会社 群馬工場に配属後、自動車の「走る・止まる・曲がる」を司るECUと呼ばれる製品の生産に携わった後、インジェクターと呼ばれる燃料噴射部品を生産する設備の保守を行う部署へ異動となり、現在は保全員として日々業務に邁進しております。また、組合・文体活動をはじめ、Super GTの観戦など、昨年は充実した日々を過ごすことができました。

今年はリスリングが叫ばれる中、私自身も新しい知識やスキルの習得に積極的に取り組み、業務の幅を広げていきたいと考えております。

最後になりますが、同窓会員の皆様にとって健康で実りある一年となりますよう祈念申し上げ、新年の抱負とさせていただきます。

黄綬褒章を2名が受章

㈱日立インダストリアルプロダクツ
機械システム事業部 製造部

堀川 一巳(68卒・土浦)

この度、令和7年秋の褒章に際しまして、はからずも黄綬褒章受賞の栄に浴しました。

去る11月12日ホテルニューオータニ「芙蓉の間」にて黄綬褒章の伝達を受け、引き続き皇居へ参内し、宮殿「豊明殿」にて天皇陛下に拝謁お祝いのお言葉を賜りましたことは、只々ありがたく感激の極みでございました。

これも偏に事業所幹部の皆様のお力添えと、これまで暖かくご指導くださいました職場の上司、多くの諸先輩の方々や同僚、そして後輩のご協力の賜物であり、心より感謝申し

上げます。

この度の受賞は、私一人の功績によるものではなく、日立の産業機械(圧縮機・ポンプ・送風機・試験機)の製造に携わる皆様のモノづくりレベルが世の中に認められ、その代表としていただいたものであります。改めて感謝申し上げます。

顧みますと昭和55年に日立工業専修学校に入学し、2年生から溶接科にて溶接の基礎を学び、溶接作業の楽しさを知り、昭和58年68回生として卒業し、土浦工場に配属されました。入所時から技能五輪の選手として全国大会に出場、昭和62年に全国溶接技術大会に出場、その後技能五輪の指導員や高等職業訓練生の指導員を経て、再度、平成9年に全社技能競技会に選手として出場しました。現在の日専校溶接実習場入口の各種競技会入賞者一覧に、三種の競技会で名前を連ねることができたことが、知る人ぞ知る自慢です。その徹底した基本指導が私の基礎となりました。教育期間に基本を叩きこまれる中、同時に産業機械の溶接作業に携わり各種溶接法(被覆アーク、半自動、TIG、サブマージ、高出力レーザ、YAGレーザ等)、多材料(鉄、ステンレス、ニ相ステンレス、インコネル、



真鍮、高張力鋼等)に挑戦でき、この42年間で、場内作業はもとより国内外(ラオスでの溶接学校立上げ・指導、イランでのポンプ据付けの製缶・溶接、中国現地法人での製缶指導・安全管理等)に従事して参りました。併せて、技能五輪、技能検定、モノづくりマイスター、日本溶接協会溶接マイスターとして、他企業、中小企業、各種学校等の多くの関係者と交流を通して技能の大切さをご指導いただき、技能伝承、人脈形成に努めてきました。良い機会をいただき大変ありがたく感じております。

今後も、日工同窓会会員であることを誇りに持ち、自己研鑽に努め、これまでの経験を活かし人材育成、技能伝承に励み、事業所の発展と地域社会へ貢献したいと考えております。志ある日工同窓会の益々の発展と皆様のご健勝を祈念いたしまして、黄綬褒章受章の御礼とさせていただきます。

㈱日立製作所研究開発グループ

渡邊 誠二(70卒・日研)

このたび、令和7年秋の褒章伝達式が11月12日に厚生労働省において執り行われ、『黄綬褒章』を拝受いたしました。その後、皇居宮殿「豊明殿」において夫婦同伴で天皇陛下に拝謁の栄を賜り、この上ない喜びと感動に包まれ、非常にありがたく、まさに幸福の極みでありました。これもひとえに、日立工業専修学校在学中にご指導いただいた先生方や先輩、同僚の皆様のご指導ご鞭撻の賜物であり、心より感謝申し上げます。

1982年の春、初めて親元を離れ、3年間の学校生活と寮生活を経験しました。そこでは、先輩方の大変熱心で厳しいご指導のおかげで精神

面も鍛えられ、苦しい時の糧となり、40年間の会社生活を乗り越えることができました。深く感謝しております。

卒業後は日立製作所機械研究所に入所



し、2005年に日立研究所へ異動後も、旋盤加工を中心に多種多様な研究開発用の実験装置部品の製作に従事してまいりました。そこでも、日専校の先輩方の厳しくも温かいご指導に恵まれ、最先端の実験装置を生み出すための高い加工技術・技能とともに、柔軟な発想力に基づいた課題遂行力を学ぶことができました。

今後は、この褒章の名に恥じぬよう自覚と責任を持ち、諸先輩方から受け継いだモノづくりのDNAを後輩たちに伝え、人づくりを通じて会社の発展に貢献できるよう、努力してまいります。今後とも日工同窓会の皆様のご指導ご支援をよろしくお願い申し上げます。

菊池 元男氏瑞宝単光章を受章

令和7年度秋の叙勲受章により11月4日茨城県庁において伝達式が執り行われました。危険業務従事者として瑞宝単光章を拝受いたしました。今年には内閣総理大臣が決定していなかったため勲章のみの拝受となり勲記は後日となりました。

11月26日には日本消防会館において林総務大臣をお迎えし伝達式が行われ、その後、皇居「豊明殿」において天皇陛下に拝謁を賜り、労いのお言葉をいただき久々に緊張と感激の時間を過ごしました。

私は、53回生として日専校へ入学、科技高の1期生として3年間を過ごし、山手工場検査課に配属されました。しかし、卒業直後盲腸の手術を

受けた後に体調を崩し、退職を余儀なくされました。その後、健康第一と体力増強を図り、日立市の消防へ第二の人生をかけました。

消防においては特別救助隊第一期生として訓練を重ね、各種災害に従事し39年間市民の生命・安全・財産を守るため、微力ながら努めてまいりました。その功績が認められ、この度の叙勲受章に繋がったものと思います。

現在は私の好きだった絵画の道に進み、発表の場である日展・東光展・県展等において審査員を務めると共に、後進の育成に当たり現在に至っています。絵画制作を通して感動と感激の喜びを一人でも多くの方に感じただければとの思いで頑張っています。『人生 懸けるものがある限

り青春』を座右の銘として残りの人生を謳歌したいと思います。

菊池 元男（53卒・本部会員）

令和7年度厚生労働大臣表彰卓越した技能者「現代の名工」を2名が受賞

令和7年度「現代の名工」に水戸支部の市野沢雅嘉氏（69卒）と那珂支部の綿引正則氏（74卒）が受賞されました。

（株）日立ビルシステム水戸事業所
市野沢 雅嘉（69卒・水戸）
職種：プリント基板組立工
《技能功績の概要》

昇降機製品を制御するプリント基板の製作に卓越した技能を有している。産業用製品のプリント基板は耐用年数も長く、電子部品のはんだ付け品質と信頼性を確保するには、高い技術が求められる。これまで数多くの信頼性の高い製作工法を確立し、環境に配慮した再生化技術を推進するなど多岐にわたり活躍し、唯一無二の生産体制を構築してきた。また、社外協力会社への技術指導や茨城県の技能検定では首席技能検定委員としても長年尽力し、後進育成にも大きく貢献している。

この度、事業所幹部を始め上司・諸先輩ならびに多くの同僚の方々のご指導とご尽力により令和7年度卓越した技能者「現代の名工」厚生労働大臣表彰を受賞することができました。ありがとうございます。また、1981年に日専校に入学し、半分厳しく、半分楽しい3年間の寮生活を経験しました。そして卒業と同時に当時の水戸工場・エレ電製課に配属され、これまで40有余年プリント基板組立関係の仕事に従事して参りました。今回の受賞は、この「プリント基板組立工」の職種であります。



会社生活の中では、職場の多くの上司、諸先輩方や同僚の方のご指導により、長年培ってきた技能・技術を活用し業務に当たることができました。そして、これまで一緒に仕事に携わったすべての方々が、事業所における製品技術変化に追従し、より良い製品開発のため、真摯に取り組み尽力された技能・技術の成果で

あり、その代表として受賞させていただいたのだと思っております。これまでいただいた多くのご指導に厚く感謝申し上げます。また、自己研鑽の機会としまして、国家検定の取得、全社技能競技会への参加と指導、技能五輪指導を通して後進の育成に携わることができた事は、私の大きな財産であり、その時多くの知識と技能を学ばせていただく事ができました。技能は基本が大事であり、この基本技能を若い時期に確実に身に付けておく事が必須です。それをさらに磨きながら、変化していく仕事に対し、新たな要素を加えることで様々な仕事に対応できるようになり、経験と共に熟練化、そして高いレベルの技能へ到達して行くのだと考えます。日立の技能人財育成は、この高いレベルに到達させる「技能の伝承」が脈々と引き継がれております。これは製造業の根幹であり、大きな強みであると確信いたします。これからも多くの熟達者が輩出される事を心から願っております。

私自身においては、この名誉ある賞を重く受け止め、さらなる自己研鑽と先輩から受け継いだモノづくりの考えや、これまで経験してきた事を、強い信念を持って一人でも多くの後輩に伝えて行きたいと思っております。今後共皆様方のご指導、ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

（8頁へ続く）

(7頁の続き)

(株) 日立ハイテク那珂地区生産本部
 綿引 正則(74卒・那珂)
 職種：電子線応用装置組立調整工
 《技能功績の概要》

長年にわたる技能の鍛錬により、電子顕微鏡製作における数mmレベルで部品組み合せを行う精密組立に卓越する。また、これまで培った技能・知識を活かし、精密組立方法の確立や自動化設備開発に取り組み生産性の向上に寄与した。後進指導においては、基礎技能の底上げを図るべく技能検定「電子機器組立て」の実技指導・学科試験対策講座を開催するなど、多数の資格取得者を輩出してきた。

令和7年度「卓越した技能者(現代の名工)」として、厚生労働大臣より表彰を賜りました。この荣誉は、技能を磨く環境を与え、新製品立ち上げに参画する機会をくださった同窓生をはじめ、上司・先輩方のご支援のおかげと心より感謝申し上げます。

電子顕微鏡を初めて知った入社当時は、業務をこなすことに精一杯で、電子線や真空の説明を受けても理解できず、興味ありませんでした。計画通りに作業を進めることに必死で、装置の仕組みを考える余裕はなかったのです。しかし、先輩方の指導のおかげで学ぼうという気持ち芽生えました。当時はインターネッ

トもなく、資料探しにも苦労しました。そこで設計者に質問し、教えていただく日々が始まりました。ある時、真空系のトラブルで悩んでいた際、設計担当者が図面を広げ「ここを見てみるといい」と説明してくれ、その一言で仕組みが理解でき、問題を解決できたことは今でも忘れられません。こうしたやり取りを重ねるうちに電子顕微鏡への理解が深まり、触れることが楽しくなり、作業範囲も広がっていききました。試行錯誤を重ねて知識が積み重なっていく過程は、今振り返っても大きな財産です。今でも電子顕微鏡が好きで、「好きこそものの上手なれ」という言葉を実感しています。

今回の受賞は、周囲に育てていただいた結果です。この荣誉に慢心せず、今後も自己研鑽に励み、製造技術力のさらなる向上と後進育成に努めてまいります。引き続き、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



令和7年度茨城県技能者表彰 2名が受賞(県知事表彰)

◆配電盤・制御盤・開閉制御機器組立工



五十嵐 朋幸氏
(79卒・水戸)

昇降機製品の電気機械組立に長年従事。難易度の高い結束製作作業の作業改善や、海外向け制御盤の作業平準化等を実現し、多様性を重視した作業改善の効率化を図るなど、国内外の制御盤組立作業においても広く貢献した。

また、技術指導により、技能五輪全国大会や全国アビリンピックの入賞者を輩出するなど、後進の育成に尽力した。

◆汎用金属工作機械工



根本 和博氏
(79卒・水戸)

エレベータ、エスカレーター機械加工および組立作業に長年従事。特に、機械加工について幅広い知識と高い技能を持ち、設備仕様への反映加工効率向上への寄与大である。管理監督者として職場全体をリードし、安全作業の実践、若手技能員を育成

日専祭支援(日立支部)

11月8日(土) 秋晴れの中、日専祭・保護者会が開催された。生徒たちは部活動別にアトラクション終了後の午後3時に体育館に集合した。生徒たちが一番楽しみにしている大抽選会である。これは日立支部が恒例で実施している生徒に対する支援活動である。以前は、カップラーメン等をテントで激安にて販売していたが、生徒よりも近隣の方や父兄が大量に購入されてしまったため、現在の大抽選会に変更となった。賞品はクオカード36本とカップ麺、スポーツドリンク等で生徒に好評であった。



本部としては来年度より日立支部と協賛での支援を考えている。賞品を更に豪華にし、生徒に喜ばれる大

日専祭で生徒へ寄贈(日高支部)

支部長研修会でも話題となったが、OBとして生徒に何が出来るだろうか？日高支部は、役員会で生徒全員への差し入れを実施することを決めた。

当日は、谷口支部長から、生徒会長後藤さんへ段ボール16箱、150個以上のカップ麺を寄贈した。受け取った後藤さんの笑顔が印象的であった。



当日販売したどら焼きの焼き印の金型2個を同窓会で寄贈しました。(事務局)

するほか、自職場のみならず協力会社への品質、作業指導等に尽力した。

抽選会となるよう日立支部と検討する。

女性会員研修会が日専校で開催される！

2025年10月25日（土）、日専校にて同窓会と学校協賛による女性会員研修会を開催しました。

当日は女性会員12名、在校生（2年生）9名、学校と本部役員13名が参加。



集合写真の後に今

泉会長、鈴木副会長、松浦代表副会長から挨拶をいただき、中でも今泉会長からは、①モノづくりの強化②外国人の受入③キヤリアパスを掲げ、さらには女子生徒の割合を3割にすることが目標との力強いお言葉をいただきました。その後、参加者の自己紹介と事務局連絡、グループ討議会実施要領説明があり、4グループに分かれて、各テーマにより討議開始。

≪テーマ内容≫

①仕事での喜び

②自信につながった経験やきっかけ

③女性生徒を増やすには

④先輩に聞きたいこと

（10頁へ続く）

No	テーマ	Aグループ	Bグループ	Cグループ	Dグループ
1	仕事での喜び	技能五輪では人間的に成長できた 担当の仕事が成功したとき	溶接が思い通りできたとき 効率よく仕事が回せて会社からの期待に応えられた時	いろいろなことを覚えられるとき（多能工として業務） ボーナスや給料をもらった時 改善した設備が作業員から評価されたとき それぞれの職場で必要な資格を取得できたこと	仕事の内容を教える立場になり自分の成長を感じた オペレータを担当しており他職場から頼りにされている 改造作業で自分を理解して作業を任せられたとき
2	自信に繋がった経験やきっかけ	新しい仕事はチャレンジして行くとよい 図面が読めないと仕事にならない（製図授業は重要）	職場の人とのコミュニケーションは学校で学んだことを活かせる 競争心をもって取り組みが認められた時	自分の実績が上司に評価されたとき たくさん任されて色々なことを経験して自信に繋がった	2年目で社内競技会に参加し銀賞を取ったとき 実習で上司に厳しくされたが発表時に評価された
3	女子生徒を増やすには	リボン・ネクタイは選好にしたい 入寮時は新入生同士にしてほしい 女性教員を増やす（特に実習系） 受験前に寮内の写真等情報が欲しかった 内装を明るい色合いにしたい	男性基準の体育授業を見直す（特にマラソン） 男子との共用場所である食堂が使いづらい	日立への就職や学校としての取り組みが大事 オープンスクールでの説明・対応が大事	日専校の知名度を上げる（科技高は知っている）
4	先輩に聞きたいこと	ネイルはしても良いのか⇒業務・上司の判断による。ピアスも業務上問題の起きないレベル 長期休暇はどのくらい休める ⇒10日前後、リフレッシュ休暇もある	〈女子で大変なこと〉 体力、重いものを持つとき、過剰な気遣い、保護具のサイズがない、同性の人間関係等 〈職場の出会い〉 職場によっては、年齢の近い方が少ない 〈女性が思うこと〉 生理休暇を特別休暇等に改名を希望する 産後職場に戻れるかが不安	会社に馴染めるか不安⇒全員と仲良くなる必要はない。自分からの会話が大事 上司とどう話したらよいかわからない⇒とにかく挨拶は大事、伝えたいことがあれば伝える	髪型。髪色の変更はいつ頃から⇒入社後に実施

(9頁の続き)

本研修会に際し、大先輩の関正治氏(43卒)よりタブレットとデジタルカメラをご提供いただき、終了後に抽選会を実施し以下の方が当選しました。

◇タブレット当選者



日専校2年生 千代谷 南さん



日立支部 菊池 莉子さん

校長から女性会員に望むこと

皆さん、休日のご参集ご苦労様です。また、日頃から同窓会活動へのご協力、誠にありがとうございます。本日は、OG12名、現役3年生4名・2年生5名、計21名に参加いただき、「女性会員研修会」を開催します。今回は、OGの方の「仕事の喜びや自信につながった経験」をOG間あるいは現役生徒と共有いただきたいと思っています。

皆さんが一堂に会した折角の機会ですので、私からは、現在、日立製作所本社で取り組んでいる「モノづくり人財強化プロジェクト」という取り組みの状況について、簡単に報告します。

これは、今年度、「今後のモノづくり人財をどう育成して行くか?」をテーマに、本社の人財部門(日専校も所属)、モノづくり戦略本部、そして、グループの教育機関である日立アカデミー3者合同で立ち上げたプロジェクトです。モノづくり人財の教育システムの再構築を検討しています。

カリキュラムを、1年次から全員がスマートファクトリーの基礎概念を学び、3DCADからCAD/CAM、ロボティクスの基礎、さらには、MES(製造実行システム)まで学べるように変えます。

めざすのは「デジタル武装した匠の育成」です。

そして、今後の「モノづくり」を担うのは、決して男性だけではなく、皆さんのような女性に大いに活躍していただきたいと思っています。

現在、在学している女子生徒は18名で、やつと全体の9%、1割に達していません。まだまだ足りないです。3割くらい、3人に1人は女子生徒くらいまで増やしたいと考えています。だって、もともと男性と女性、ほぼ1対1なのですから。

今日の研修会でも「女子生徒を増やすためには」というテーマがあります。皆さんのお知恵を、ぜひお借りしたいと思っています。

女性会員アンケートに対する

先輩からのアドバイス

20代女性の皆さんへ

社会人としてのスタートを切ったばかりの今、不安や戸惑いもあるかもしれませんが、でも、今の仕事がつつと続くわけはありません。だからこそ、目の前の仕事に真剣に向き合いながら、少しずつ自分の未来を描いていきましょう。

※まずは「資格取得」を目標に

現場での経験は大切ですが、それだけでは成長は限られます。自分の

仕事に関係する資格を計画的に取得することで、上司や周囲へのアピールにもなります。簡単ではないけれど、努力は必ず自分の力になります。

チーム活動に積極参加を

小集団活動や改善提案など、チームでの取り組みに積極的に関わること、仕事のスキルだけでなく人間力も磨かれます。能力は自信につながり、信頼される人になる第一歩です。

夜勤についての考え方

「夜勤は気楽で手当もつく」と聞いて興味を持つ人もいるかもしれませんが、でも、夜勤は生活リズムを崩し、体調や肌にも悪影響があります。若いうちは大丈夫と思っても、将来に響くことも。自己アピールの機会も減るので、慎重に考えてください。

職場での信頼関係を築くには

男女差を感じることもあるかもしれませんが、まずは仕事で信頼されることが大切です。「彼女なら任せられる」と思われるような存在になりましょう。上司との接し方も重要で、「できません」と否定するのでなく、「Yes But」で前向きに伝える工夫を。相手のプライドを傷つけずに伝えることが、印象を大きく変えます。

噂や妬みに負けない心を

仕事ができるようになると、妬みや噂に悩まされることもあります。そんな時は、強い心と信念を持つて

乗り越えてください。無視するのが一番。信頼できる友人を職場に持つことも、心の支えになります。嫌なことは抱え込まず、話して吐き出すことが大切です。

同窓会活動でつながりを

これから女性会員も増えていく中で、支部活動や同期会に積極的に参加し、女性に参加しやすい行事を企画していきましょう。学生時代に嫌な思いをした人に再会することもあるかもしれませんが、相手の成長を見極める機会にもなります。

人とのつながりを活かす

個人成果主義が進む中でも、仕事は一人では限界があります。改善提案を実現するには、試作品や協力が必要なことも。同窓会の先輩・後輩とのつながりを活用することで、仕事の幅が広がります。行事に参加して交流を深めておくことが、将来の助けになります。

最後に

パワーハラやセクハラ、働き方改革など、職場環境は厳しいこともあります。でも、ほんの少し「目の前の仕事」を頑張ることで、自分なりの小さなイノベーションが生まれます。そして、周囲から信頼される女性として成長していけるはずです。応援しています。

日工同窓会事務局

石井 浩(58卒)



左より山田指導員、片野選手、塩澤指導員

2025年9月30日(火)から10月2日(木)にかけて第48回技能五輪国際大会CNC旋盤職種日本代表選手選考会が三重県で開催され、昨年の技能五輪全国大会旋盤職種入賞者と別枠予選会で出場権を付与された4名で競技が行われ、片野諒人選手(笠戸事業所)が1位となり来年



笠戸事業所 片野 諒人 選手(108卒) 「CNC旋盤職種」国際大会出場決定!

中国上海で開催される第48回技能五輪国際大会への出場を決めました。片野選手の健闘を祈る。



2025 CN盤 選考会最終成績

No	会社名	氏 名	総合得点	順位
①	(株)日立製作所笠戸事業所	片野 諒人	227.613	1
②	トヨタ自動車(株)		205.81	2
③	トヨタ自動車(株)		194.608	3
④	(株)デンソー		92.652	4



在会40年同期会(71卒)開催される!

11月15日(土) ホテルテラスザスクエア日立において在会40年(71卒)同期会を開催しました。10年前に開催した在会30年同期会では、卒業生12名中69名が出席してくれました。その後、日立グループの事業再編などによって支部数が減少した影

響などから、この10年間で会員は82名から42名へと半減してしまいました。今回は幹事の案内が遅かったせいもあり、目標としていた50名を大きく下回りましたが、都合をつけて集まってくれた39名(うち10名は退職者の出席者には大変感謝しています。記念撮影の後、前代表副会長の鈴木祐一君による日工同窓会活動報告を含めた乾杯の挨拶で幕を開けました。クラス毎に6テーブルに分かれた同期生は、仕事や家庭、健康状態などの近況報告の他、日専校在学中の寮生活、部活動、先輩や先生などの昔話で大いに盛り上がり、気が付けばアツという間に2時間が経過してしまいました。名残惜しい中、全員が輪になって肩を組み合い、寮歌と校歌を大合唱し、工師として活躍している甲高次夫君の万歳三唱でお開きになりました。

最後に、幹事から約2年後に迎える還暦を同期生同士で祝い合うため、2028年3月に同期会を開催することをお知らせしました。母校日専校の見学会なども計画していますので、多くの同期生の皆さんの参加をよろしく願います。

記: 細金 敦

ボランティア活動に参加して

11月15日(土) 同窓会ボランティア活動にOGとして初めて参加しました。

学生の時とは違い、OBの方や生徒の皆さんとのコミュニケーションはとても楽しく、カメラで皆さんの笑顔を撮影したり、お昼のカレーうどんを協力して作ったり、後輩とも交流できたりと、とても有意義な時間になりました。

調理担当の芳賀さん
筆者撮影、カメラワークセンスも抜群

今後もOGとして同窓会活動に参加し、皆さんと交流していきたいと感じました。

土屋 更紗(110卒・那珂)

日専校歴史写真[22]「戦前戦中の八紘寮の生活・自習風景」1940(昭和15)年 1944(昭和19)年

●1940(昭和15)年

徒弟時代の芝内から成沢に移転してからの戦前戦中の寮生活は大変厳しく、学年が一年違ふと軍隊風の指導が行われていた。下級生は上級生には絶対服従で、緊張の連続であった。特に挨拶、言葉遣い、態度などの行儀には気配りが必要であり、時に上級生からの指導が行われた。一方寮では南京虫に喰われ、手足が赤く腫れあがり、悩みのひとつであった。しかし、寮で体験したいずれも、後の軍隊生活に非常に役立ったとの語り草になっている。1年生は不満の時代、2年生は得意の時代、3年生は感謝の時代といわれた。

1955(昭和30)年発行の「35周年記念日工同窓会報」の中で、児玉寛一氏(第2代校長)を囲んで、学校創立当時を知る卒業生が座談会を行っている。その中で1940(昭和15)年に芝内から成沢に移転した際の新校舎、新寮の建設の苦心談を語っている。自習室に関して抜粋要約する。「自習室は部屋ごとに設けるか、共通にするかで色々考えた。芝内の寮の経験から、部屋ごとに机を置くと、寮監が生徒の勉強の指導が難しくなるので、北側の廊下を広くして共通の自習室を設けた」



1944(昭和19)年 6寮廊下での自習



1940(昭和15)年 八紘寮廊下での自習

●1944(昭和19)年
追試制度がなく、成績が悪いと落第になるため、学校でも寮でもよく勉強した。



後年の夏の夜の自習風景

※本連載では日工同窓会報(記念会報含む)から引用する場合があります



1944(昭和19)年 6寮廊下での自習

日工同窓会 在会35年(76回卒)同期会



頭(こちらもじゃんけん)で決定で終宴となった。なお、次回の同期会を計画するにあたり76卒のグループLINEを開設したので、同期各位への拡散をお願いする。

記・木村 昇

11月8日(土) ホテルテラスザスク エア日立にて76卒の同期会が開催された。
企画実行いただいた本部役員諸氏に感謝。
106名が卒業した中、同窓会を離れた者も含めて13名の参加であった。少々寂しい気もするが、同期会のきっかけになると言われている総会の際に「在会30年表彰」に合わせて実施される同

期会をコロナ禍により実施できなかったことを踏まえるとよく集まった方だろう。
一人、また一人と会場に集まる参加者の顔には、35年という月日が刻まれ年相応ではあったが、変わらぬ面影に在学当時の思い出が蘇ってきた。
宴は黒澤(旧姓大森)勝君による乾杯の音頭(その場でじゃんけん)で決定でスタート、初めこそぎこちなさが

あったものの、程なくしてそれもとこへやら、思い出話や近況報告など、会話は尽きることがなかった。皆家庭に仕事にいろいろ大変な年齢のほうであるが、愚痴や苦労話といったネガティブな話題はなく、ポジティブな話題に終始したことが印象的であった。最後に寮歌を合唱、再会を誓いながら南雲剛君の締めめの音頭(こちらもじゃんけん)で決定で終宴となった。

在会35年同期会(76卒)開催される!

学校だより

2025年11月から12月までの 資格試験一覧

この期間に日専校生が取り組んだ資格・検定試験の一覧を記載する。

●11月9日 英語検定二次
(二次合格生徒)

●12月2日 計算技術検定
(2級・3級受験生徒)

●12月13日 危険物取扱検定
(選抜生徒)

1年生が社史見学

日立の歴史を学ぶ

少し肌寒い日となった10月22日、恒例の1年生社史見学会を実施した。今年度も日立オリジンパーク・熊野神社・日鉦記念館を2班に分かれて見学した。



社史見学(日立オリジンパーク)

オリジンパークでは2グループ毎に、それぞれご案内いただく等、丁寧なご対応をいただいた。また、熊野神社では神社および記念碑の説明、拝殿での参拝に加え、御札まで頂戴し、大変印象に残る参拝となった。今回も各見学場所でのクイズが出題されたが、生徒はみな100点満点をめざし興味を持って見学に臨んでいた。加えて事前学習した日立100問100答の文言が随所で現れ、実地でそれらを確認することで、より深く社史を身につけることができた。今後も日立製作所と日専校の歴史を实地で学べる社史見学会を貴重な機会と位置づけ継続実施していく。

考動アクション委員会

主体的な行動を実践

2年電気科1組 後藤 洗平

(考動アクション委員長)

この度、日専校のリーダーとして考動アクション委員長を務めることになりました後藤洗平です。各委員会のチームリーダーという立場を通じた自己成長への期待と、学校・生徒・事業所からの期待に応える責任感という二つの思いを力に変え、全生徒を導くリーダーとして尽力いたします。主な活動として、考動アクション委員会の内部組織(学校・寮・部活動委員会)の活動を共有し、他委員会からの意見を収集します。そして、最終的な目標を「事業所から信頼される人財になること」と明確化し、それを達成するための具体的な手段を策定し全校に展開

します。具体的には、学校委員会がクラス活動の改善を、部活動委員会が問題解決のための改善案策定をそれぞれ促し、その活動成果を全校集会で発表することで、生徒全員が成長する機会をつくり出します。この目標達成には、生徒全員が「当たり前のことを当たり前に実践する力」が必要です。自身はリーダーとして常に責任と自覚を持ち、考動アクションをマインドの土台とします。考動アクションを通じ、全生徒の人間力を養い、委員会のメンバーと共に日専校をより良いものにするため、誠心誠意努めます。



考動アクション委員会

日専祭・保護者会を開催

11月8日、恵まれた天候の中、日専祭・保護者会を実施した。朝から日専校の代名詞とも言える実習授業にて、1年生の真剣に学ぶ姿をご覧いただいた後、体育館にて校長のあいさつや諸



日専祭(日専校どらやき販売)

連絡を主とした保護者会全体会を開催。その後日専祭を開始し、生徒たちによるクイズ、動画、ダンス、生演奏を交えた楽しい部活ステージ発表を行った。参加者全員が一体となった後、各部のイベントや、出店の食事に分かれ、来場者にも楽しんでもらえる企画を実施した。日頃の学習成果である課題作品も各実習場に展示し、保護者の皆様にとって、生徒たちの日々の成長が垣間見られる一日となった。毎年、日工同窓会の先輩方にも抽選会を行っていただき感謝申し上げます。

2年溶接科 野口 颯

(学校委員会委員長)

私は考動アクション学校委員会委員長、2年溶接科の野口颯です。今回、日専祭の実行委員として企画運営を担当しました。私たち委員にとっても初めて本格的に運営を行う行事であ

り、やる気に満ち溢れていました。しかし、実際には思うようにいかないことも多くありました。特に午前の企画では、保護者の方々も楽しめる案になかなか辿り着けず、頭を悩ませました。決定の遅れから情報の展開も遅くなり、各部活の準備時間を十分に確保できなくなってしまうことは大きな反省点です。一方で、本番ではどの部活も非常にクオリティが高く、生徒はもちろん、先生方や保護者の方々にも楽しんでいただけたと感じています。運営面では情報共有の曖昧さから連携不足が生じる場面もありましたが、この失敗を通して、メモを取るこの重要性や、正確に情報を処理・伝達する力の必要性を強く再認識しました。日専祭を通して、改めて自分が学校のリーダーであるという重みを実感しました。



日専祭(部活ごとにステージ発表)

(13頁の続き)

この経験と反省を糧に、これからの学校の明るい未来のために尽力していきたいと思っています。

1年生が安全体感教育受講 安全はすべてに優先する

10月から11月にわたり、日立事業所教育訓練センター内の安全体感センターにおいて、1年生75名全員が6グループに分かれて安全体感教育を受講した。研修では、安全の概要説明および災害事例の紹介に続き、生徒にとって初めてとなる体感装置・VRを用いた危険体感を実施した。これらの内容は、学校の授業や実習では得難い災害の危険性を実感させるものであり、生徒の安全意識の高揚および危険感受性の向上に寄与した。

1年1組 芳賀 聖華
安全体感講習会を受講して、日頃から



安全体感教育

ら日専校で学び実践している安全行動が実際の工場においても重要視され、日々実行されていることを知ることができました。現場では質の高いRKYが実行されており、危険度を可視化して具体的な対策でリスクを下げようとする工夫や、それでも「危険はゼロにはならない」という前提に立つた意識の高さを学びました。また具体的な災害事例を、身をもって体感することで、普段の生活や作業環境の中にも危険が潜んでいることを実感し、安全意識を高めることができました。今回の受講で得たことを今後の実習や将来の業務に活かし、安全を最優先とする行動を徹底していきたいと思っています。

2026年度入学試験 県外を含む5会場で実施

12月4日、5日の両日、2026

年度生の入学試験を県内2箇所（本校つくば市、青森県（青森市、東京都（大田区、山口県（下松市）の5会場）で実施した。近年、少子化の影響が顕著に現れ、近隣の県立高校では定員割れする学校も多く、受験生の確保に苦勞している。日専校では優秀な人材を確保すべく、今年度も各事業所にご協力いただき従業員向けの説明会、小・中学生を対象とした出前授業を実施するなどPR活動を展開してきた。また、夏休み期間に下松市、青森市、弘前市、八戸市で学校説明会を開催、更にメディア（青森放送、青森朝日放送）を活用した広報活動も展開してきたが受

験生の確保に苦戦している。今後も日専校の魅力を幅広く発信し、生徒募集活動を展開、受験生の増員を期待している。同窓会員の皆様には、引き続きお知り合いの方々に日専校の紹介をお願いしたい。

寮避難訓練を実施



寮避難訓練

12月11日、本年度2回目となる避難訓練を実施した。前回は授業中の災害発生を想定した校舎・実習場からの避難であったが、今回は生活の場である寮からの避難に焦点をあてた。本訓練の目的は、緊急事態において教職員および生徒が安全かつ迅速に避難できるように備えを万全にする事にある。今回は、昼食時間帯に寮の厨房から火災が発生し、寮食堂内に煙が流入してパニックに陥るというシナリオを設定した。非常ベルの鳴動と避難指示の放送を受け、参加者は即座に避難を開始し

特段のトラブルもなく集結を完了した。また、日立消防署の職員協力のもと、参加者全員が水消火器の取扱訓練を受けた。最後に同署職員より、有事の際の心構えについて訓話を頂き終了した。今後も継続的に訓練を計画し、防災意識の向上に努めていく。

第56回日専校マラソン大会

例年、マラソン大会に備え、事前に約1週間、平日の朝の授業前に、学校グラウンドで「耐寒ランニング」を実施している。今年度も12月12日から体育委員のリードにより、全校生徒がラジオ体操、日専校体操の後、グラウンド周辺を走った。その他、体育の授業や部活動でも、この時期はランニングの練習を行っていた。そして、「第56回日専校マラソン大会」を12月19日、晴天の下、ひたち海浜公園にて開催した。生徒たちは元気に園内を駆け抜け、



耐寒ランニング



マラソン大会(国営ひたち海浜公園)

全員が完走した。男子個人の部は2年電気科1組の後藤洗平さん、女子個人の部は2年電気科1組の根元優衣奈さんが優勝となった。また、クラス対抗は2年電気科1組、部活対抗はバスケットボール部が、それぞれ優勝した。生徒たちにはクラスの枠を超えて応援する姿や健闘を称え合う姿があり、心温まる気持ちで終わることができた。

【大会結果】

- 部活動対抗 ①バスケットボール部 ②陸上長距離部 ③サッカー部
- クラス対抗 ①2年電気科1組
- ②2年電気科2組 ③2年機溶科
- 男子個人【10キロ】 ①後藤洗平（2年電気科1組） ②黒澤柚稀（2年電気科2組） ③渡部眞生（2年電気科1組）
- 女子個人【5キロ】
- ①根元優衣奈（2年電気科1組）

新年のご挨拶

副会長・本部会運営委員会主査 上野 栄一（54卒）



本部会員の皆様、明けましておめでとうございます。どうぞよろしくお願いします。

令和8年は皆様にとりまして、どんな希望に満ちた年でしょうか。

令和7年の活動を振り返りますと、まずは目玉の行事として第51回「わが宿の集い」を9月に同窓会館で開催しました。

今回は、送迎で同窓会館にご来場いただいた奥様、お嬢様にもご参加いただき楽しい宴となりました。また、参加者全員の方に自己紹介及び近況報告をしていただき懇親を深めることができました。

今回も企画小委員会の小室主査（59卒）が料理長となり、役員が手料理を沢山作って振る舞い、大変盛況でありました。

今回の「わが宿の集い」では、関正治氏（43卒）から抽選会の賞品として高価なノート型パソコンの無償提供があり、抽選の結果、海野浩安氏（70卒）が見事当選しました。当選した海野氏は大喜びで皆さんから万雷の拍手をいただきました。

次に鶴の岬で実施した6月と9月のグランドゴルフもなかなか好評でした。今回は奥様2人にもご参加いただき、華やかな熱戦が繰り広げられました。

5月と11月には、たくさんさんのボランティアの方にお手伝いいただき、100周年記念事業で植樹した桜の木周辺の手入れを行い綺麗に整備されました。作業後の、大好評のカレーうどんには皆さん舌鼓を打ち、何度もお代わりしていただきました。齋藤貴広（64卒）料理長の味付けが抜群においしかったです。また、日専校の生徒さんにも多数ご参加いただきありがとうございます。

以上、令和7年度の行事を振り返ってまいりましたが、実り多い一年であったと思います。令和8年度も本部会員の皆様が多数参加していただける行事を役員の皆様と計画立案、実施していきたいと思っております。では是非ご参加下さい。

最後に、令和8年が本部会員の皆様とご家族にとりまして幸多き年であります事を祈念して、新年のご挨拶とさせていただきます。



あります事を祈念して、新年のご挨拶とさせていただきます。

第7回ボランティア活動行われる

2025年11月15日（土）、恒例となったボランティア活動の第7回目を実施されました。

当日は、天候に恵まれ学校側の配慮により卓球部生徒10人の応援と多くの先生方や今年卒業した人から44回卒業までの幅広い年代の総勢34人が集まり、日工同窓会創設100周年記念でグランド周辺に植樹した8本の桜周辺の草刈りや野球ネットにまとわりつく蔦の除去等を行いました。また、今回は、来年度よりグラウンドゴルフで借用する予定のサッカー部のグランド周辺の除草も行い、広範囲にわたり作業を行いました。参加された方には、各々鎌や手袋を持参いただき、刈り払い機で作業できない桜の周辺を鎌で手際よく刈る人やネット立ち上げ部分を自前の剪定鋏にて刈る人、脚

立にてネット上方の蔦をとる人、そして卓球部は刈った草を集め運ぶ等役割分担して効率よく作業を行いました。

作業範囲が広範囲の為、なかなか作業が終わらず正午を過ぎてしまいました。終了後、「溶接実習棟」前に参加者全員が集合、草刈りに参加しない女子や本部役員が齋藤氏（64卒）の指導で調理した恒例のカレーうどんに舌鼓を打ちました。



「溶接実習棟」前でのカレーうどん昼食会

その後参加者全員による自己紹介を実施し、生徒からの今後の抱負に対して同窓会先輩からアドバイスする等、有意義なひとときを過ごし解散となりました。

次回（第8回）は5月23日（土）、



初の女性会員参加



「刈り払い機」三銃士



大活躍のリヤカー部隊

今回と同じく日専校グランド周辺の桜の手入れ、草刈りを行う予定です。作業範囲が広がっており是非、正会員の皆様の参加もお願い致します。企画小主査 小室道男（59卒）

常陸太田地区

懇親会開催

2025年10月4日(土)、昨年に引き続き懇親会を常陸太田市「割烹々々木」で開催した。参加者は昨年同様10人で計画通り開催した。

今回は、地区長が石田正喜氏(52卒)から甲賀勇雄・黒羽満氏(58卒)の二人に交代し、それぞれに挨拶いただし、前地区長石田氏の乾杯の音頭で懇親会がスタートした。

和気あいあいとした雰囲気盛りに上がり滑舌も良好になったところで各自の近況報告をいただいた。

皆さんの共通点は趣味の旅行や健康管理と持病の話が多かった。

最後は、来年の再会を祈念し、最年少の橋本英憲氏(67卒)の締めで散会した。

甲賀 勇雄(58卒)



日立北部地区

第8回懇親会を開催!

2025年11月7日(金)、日立北部地区第8回懇親会を実施した。

2023年11月11日に第7回懇親会を実施、2024年は開催できなかったが、今年は開催できて幹事一同ほっとしている。参加人員は9人、前回より1人増えたのは良かった。

7月19日(土)に第1回幹事会を行い、鶴の岬で懇親会を実施することを決定した。

会員への連絡は、同窓会本部事務局に案内と出欠連絡ハガキを作成していただき、メールでの案内やメールのない方には地区幹事が配達した結果、75人の会員から欠席46人、出席11人、連絡なし18人の応答であった。(最終的には出席9人)

10月25日(土)に第2回幹事会を行い、懇親会の式次第、進行担当などを決定した。



会場は日立市十王町茨城県立国民宿舎「鶴の岬」、「鶴の岬」の計らいで送迎バスを運行していただき、直接参加も含め、9人が集合した。

進行の資料や名札を配布し座席を決め、会はスタートした。

開会の挨拶を稲葉栄次氏(48卒、前回の地区長で同窓会本部でも活動していたが、2021年地区長を退任)が実施、「久しぶりの再会を喜び、継続してまた来年も集まろう」と開会を宣言していただいた。

乾杯は小林清氏(48卒)が担当、過去には技能五輪の指導や得意の英語で外国人に技術を指導されるなどしておられ、お元気な声で高らかに乾杯の音頭を取っていただいた。

色々な話題で懇談中ではあったが、参加者全員に近況報告をいただく時間を設けた。それぞれに色々な場面で活躍されており、元気な方も、老化と戦いながら日常を過ごしている方もおり、話の途中に横から口を挟ませていただきながらの楽しくも、人生に参考になるお話であった。

あつという間に2時間が過ぎ、工場長秘書を務めた経歴を持つ箭内光人氏(63卒)が閉会を宣言。引き続き9人全員で校歌を3番まで斉唱次に寮歌も声高らかに歌い、来年も元気に会おうと約束し会を締めた。

平塚 宣行(58卒)

日立中央地区

第9回懇親会を開催!

2025年11月8日(土)日立市神峰町のレストラン「しいな」で日立中央地区の第9回懇親会を開催した。

参加者は10人。当初は12人の参加予定であったが、会員は全て高齢者。健康上の理由で開催日直前に2人の方が欠席となり、10人での開催となった。

初めに集合写真を撮り、13時から杉山貞男地区長(51卒)の挨拶、続いて昨年から今年にかけて亡くなられた 中島正信氏(32卒)、鈴木周郎氏(32卒)、木村正孝氏(47卒)のご冥福を祈り黙とうを捧げ、筆者の大内(52卒)の進行で開会した。

乾杯の音頭は本日の参加者の中で最高齢の倉持勇四郎氏(43卒)、年齢には見えない若々しさで挨拶、発声をしていただいた。

乾杯の音頭は本日の参加者の中で最高齢の倉持勇四郎氏(43卒)、年齢には見えない若々しさで挨拶、発声をしていただいた。



次に荻野常美氏(53卒)より本部の活動状況などの報告を受け、少々酒が回ってきたところで、各自の自己紹介と近況報告。

舌が滑らかになってきたためか、中々話が終わらない人や、近況報告というよりは、現役時代の思い出を話される人など、色々な近況報告があつて楽しい懇親会となった。

また、昨年に続いて関正治氏(43卒)よりパソコンの提供があり、本来ならば抽選で受領者を決めるところ今回は特別に無抽選とした。というのも杉山地区長が現在パソコンをお持ちでないというので、同窓会の活動にこのパソコンを活用していただくことを条件に、無抽選で杉山地区長にお渡しすることになった。

こうして楽しく過ごした懇親会を終了したが、年々減少する会員数にこの先どのように対処すればよいかわからないところである。

また会場のレストラン「しいな」も来年は閉店するということから、会場探しの必要もあり、これもまた悩むところであるが、何とかして来年以降も続けて、皆さんに会ってきたいと考えている。

大内 正典(52卒)



日立中部I地区

20回目の懇親会を開催

「地区同窓会のあり方」を
今後の課題に

2025年11月28日(金)、節目となる第20回中部I地区懇親会が、神代光昭氏(48卒)の経営する池の川末廣にて開催された。

参加者は、来賓の地区活動小委員会主査の長峰省三氏(58卒)を含め13人。前回とほぼ同数だが、盛り上がった懇親会となった。

地区長の岡部健氏(50卒)の挨拶の中で、「参加者の減少でもこの会は毎年開催し、楽しい会にしたい」と力強く述べられた。

来賓の長峰氏は学校、同窓会の状況を報告された。



最年長の米野氏(40卒)による乾杯の音頭で宴に入った。参加者全員は、奥の近況報告で

さんの負担を減らすために家事に励んでいるなど従来では考えられない話題も出た。

余興は、おなじみの安(41卒)・神代(48卒)・榎原(53卒)「池の川トリオ」のハーモニカ伴奏で校歌、吉田メロディー等を全員で歌った。本会の名物となり、皆さんの楽しみの時間である。

店内に飾られた竹灯り(竹筒の外周に風景や人物などの透かし彫りを施し、内部に灯りをとます)があり、先輩の目に留まり話題に。竹の運び方、彫刻の仕方の苦労など神代氏の話があった。

定番の寮歌、そして関氏(52卒)の三本締めで終了した。

今回メール所有者31人はメール、その他は往復はがきで出欠を確認し経費を節減した。

課題は、

- ①懇親会の出席者が少ない。
- ②若い会員の出席者が少ない。
- ③場所の選定をどうするか？

である。

中部I地区の出席者はコロナ以降10数人。初回は、46人で最低でも34人いた。複数の地区との合同懇親会、飲み会以外の懇親会を考えるなど解決策は必ずあるはずだ。

小島喜代一(48卒)



52回卒

「喜寿」を祝い同期会を開催

卒業して59年目の秋を迎えた大安吉日の2025年10月23日(木)、52回卒「喜寿祝い」を23人の参加者にて久慈サンピア日立で実施した。懇親会開始は18時を予定したが遠方からの人、一風呂浴びてくつろぐ人を考慮し15時に受付を開始した。瞬く間に控室はアルコールの匂いが



が充満、親睦が始まってしまっていた。古希祝い以来7年振りの再会、又卒業以来の再会を懐かしむ仲間を強く感じた。

定刻になり懇親会を始める時は、飲み放題契約を後悔する雰囲気になっていた。

卒回代表の長嶋忠光氏による同窓会の近況報告を含めた挨拶で開始。白河市から参加してくれた佐川敏男氏の乾杯にて校歌、寮歌のミュージックが流れる中、懇親会がスタートした。

酔いの回らぬ前に？各人の近況報告を持ち行った後、自由懇親が21時まで続いた。

紙面化出来ない思い出も含めて楽しい時間を過ごした締めは、つくば市からの参加の鈴木忠氏が力強く行い、二次会の幹事部屋に移動。更に思い出話、これからの人生と際限無く続いたが、翌日の体力も考え、お決まりの次回をどうするかは話題になり、確約無しの米寿祝いを行う事を決め、24日にならない所でお開きとした。

(石田 正喜)

55回卒

11回目の同期会を開催！

2025年10月21日(火) ホテルテラススクエア日立にて11回目の同期会を開催した。

2012年12月の初回から4回までは当ホテルで、5回から6回は那珂市の那珂健康センターで、7回から10回は「鶴の岬」で行ってきたが、昨年皆さんの意見をお聞きし、日帰りでも良いのではとの意見があり、当初に戻り当ホテルで11回目の同期会を開催することとした。

今回は50人の会員に案内状を送付した。10年ぶりに参加した阿部真栄君、出席最多10回の倉持和義君等15人が出席してくれた。しかし、足を痛め歩行困難な人、白内障や糖尿病などの病氣療養中で約30%の人が欠席となった。

定刻10分前には参加者全員が集合し、即、記念撮影を済ませ、今年度の代表幹事である豊田の挨拶後、森君の音頭で待ちに待った乾杯を行い、開宴となった。

日専校卒業後56年、会社定年後14年を経過し、月日の流れは早く来年は後期高齢者の仲間入りである。

司会進行は、木村君が担当。各自に近況報告をお願いし、健康維持に務め励んでいる人、農園作業で多忙

(18頁へ続く)

(17頁の続き)
な生活をしている人や孫の面倒をみている人、趣味のボウリングやバンド、ゴルフ等悠々自適の生活を送っている人などが紹介された。
学生時代の面影が多少ある人、全く面影が思い出せない人もいたが、時間とともに学生時代に思いを寄せ親交を暖めお互いの絆を深めることができた。
2時間の予定時間はあつという間に経過して、恒例の校歌・寮歌斉唱



は梶山君の指揮で行い、最後の締めは三村君の73才とは思えないパUNCHの効いた元気な声で「フレ、フレ、55回生」で締めくくり、次回12回目の再会を約束し散会した。
今回病氣療養等で欠席された方においては、治療・療養回復に励み、次回は参加出来ることに期待したい。
(豊田 英雄)



59回卒

11回目の同期会を開催!

2025年11月9日(日)・10日(月)に茨城県立国民宿舎「鶴の岬」で同期会「古希祝い」を開催した。
59回卒の同期会は、5月開催の屋形舟の時に参加できなかった会員の為に、もう一度集ろうと約束して予約がとり易く料金が安くなる日曜日で開催した。今回で第8回目を迎えた。当初32人の予約があつたが前回より2人多い29人の参加であつた。



当日は15時のチェックイン40分前から参加者が集まり、受付を手伝う会員や各部屋にウエルカムドリンクを用意して飲み始める会員もいた。
18時予定の宴は、宿泊客によるエレベータ待ちの渋滞があり、古希祝は遅れてスタートとなった。

まず、「鶴の岬」提供の記念撮影から始まった。
若松君が司会を務め、勘違いして前日の土曜日に出発したとLINEで連絡があり、慌てて日程の間違いを電話にて指摘した事や、場所を間違えて日帰り温泉「鶴来湯」に行つた人がいた等のハプニングが有つたことが、まず紹介された。

今回は白庭君が前回の屋形舟の写真拡大コピーして会場に張り出し、自分の写真を見つけては当時の思い出に花をさかせ、最後に寮歌・校歌を斉唱した。
その後、二次会部屋にてそれぞれ健康問題やら仕事や趣味のことに朝まで話が尽きることがなかった。

翌日は、寝不足で眼を擦りながらホテル名物の屋上露天風呂で、滅多に見る事が出来ない水平線から朝日が昇る様子を見て感動した。

その後、朝食を済ませ、次回は来年開催とする意見や格安温泉利用等を考慮し、連絡を取り合う事として散会した。

(小室 道男)

コラム

「ごだわり人生」第9回

小島 喜代一(48卒)

ミスタープロ野球・長嶋茂雄氏が2025年6月3日に亡くなった。背番号3にふさわしく3がらみである。新聞の表記では長島である。常用漢字表にないからだ。この「島」ではなぜか力強さ・ダイナミックさが伝わらない。こう思うのは私だけだろうか。

ところで、「吉田正」大先輩の正しい氏は土(サムライ)に口ではなく、土(ツチ)に口である。名前の正しい表記は難しい。
吉田正の出身地、日立市の神峰公園頂上に吉田正音楽記念館がある。既に見学された方もおられると思うが、ぜひご覧いただきたい。以前は年中無休だったが、現在は月曜日が休館なので注意が必要だ。詳しくはホームページを。

入口付近に日工同窓会などが寄贈したブロンズ像があり、国民栄誉賞等も展示していて、吉田正の全てを知ることが出来る。
名誉館長には吉田喜代子夫人、続いて門下生の長男ともいえる橋幸夫氏が就き、貴重なお話をいただいた。その橋幸夫さんも9月4日に亡くなられた。

吉永小百合、三田明等に加え、吉田メロディーを継承する若き歌手により、「吉田正」は永遠に続く。

67期「日工専研修」合格者

◎電気・電子コース

清水 日向氏
(107卒・那珂)

◎機械コース

鈴木 理久氏
(105卒・佐和)齋藤 恭嗣氏
(106卒・建機)藤崎 蓮氏
(106卒・那珂)田中 泰雅氏
(107卒・佐和)藤田 羅生氏
(107卒・佐和)鈴木 悠雅氏
(108卒・佐和)

◎管理コース

前田 孝亮氏
(108卒・建機)

表彰

◎黄綬褒章

堀川 一巳氏
(68卒・土浦)渡邊 誠二氏
(70卒・日研)

◎瑞宝単光章

菊池 元男氏
(53卒・本部会員)

◎厚生労働大臣表彰(現代の名工)

市野沢 雅嘉氏
(69卒・水戸)綿引 正則氏
(74卒・那珂)

◎県知事表彰

五十嵐 朋幸氏
(79卒・水戸)根本 和博氏
(79卒・水戸)

◎技能検定永年功労者・協会長感謝状

◇電子機器組立

藤澤 則彦氏 (75卒・佐和)

坂場 賢宏氏 (82卒・那珂)

◇機械加工

小野瀬修二郎氏 (82卒・佐和)

◎多能技能士・協会長表彰状

◇機械保全等3職種

半谷 淳一氏 (85卒・佐和)

伊東 義朗氏 (94卒・佐和)

小林 右京氏 (98卒・佐和)

山形 隼斗氏 (98卒・佐和)

◇機械加工等4作業

大友 伸彦氏 (88卒・那珂)

林 涼平氏 (97卒・那珂)

◎ものづくりマイスター認定者

◇電子機器組立

三上 清弘氏 (73卒・佐和)

原田 和彦氏 (79卒・水戸)

齋藤 美次氏 (80卒・那珂)

◇機械加工

五島 亮一氏 (82卒・土浦)

齋藤 貞則氏 (86卒・那珂)

◇溶接

大塚 和博氏 (82卒・土浦)

◇仕上げ

鈴木 輝明氏 (80卒・土浦)

会員の消息

◎定年退職

武藤 昌義氏 (69卒・山崎) 25・10・30

石井 公彦氏 (69卒・日立) 25・11・30

小金 克巳氏 (69卒・日立) 25・11・30

塚田 宏氏 (69卒・佐和) 25・11・30

天野 淳氏 (69卒・旭) 25・11・30

黒柳 次夫氏 (69卒・本部) 25・11・30

お詫び訂正

◆前号471号で2か所の誤りがありました。お詫び訂正いたします。

・2頁2段Aグループ写真のキャプション

(正) 大平 悟氏 (74卒・土浦北)

(誤) 大平 英樹氏 (76卒・建機)

・14頁5段9行目

(正) 神磯の朝

(誤) 上磯の朝



▼日専校では2026年4月に10名の女子を含む69名の新生を迎えることになった▼毎年、日専校の職員が東北から九州の中学校800校以上を訪問し、学校の紹介や入学試験の案内を実施しているが、なかなか入試志願者の増加に繋がらない▼生徒に聞くと、日専校を知るきっかけは、残念ながら中学校の先生からはほとんどなく、家族・親戚・先輩というケースが多かった▼会員の皆さんの知り合いに中学生のお子様を持つ方がいらっしゃれば、ぜひ日専校をご紹介いただき、多くの生徒に受験してほしい (細)

2026年は60年に一度の「丙午(ひのえうま)」の年で、「丙」は太陽の光を「午」は真夏の火を意味し、火のエネルギーが重なり情熱や行動力が高まるパワフルな年とされているそう。新しい挑戦やあきらめかけていたことに取り組むことで、大きな成果につながる可能性がある年でもあるようなので「では、早速!」と思っただが、さて何を?同窓会にとっても躍進の年となるよう、まずはじっくりと落ち着いて考えることから始めてみたいと思う。



(之)

フライス盤



近内 悠(110卒)日立ハイテク

フライス盤



副島 蓮(109卒)日立ハイテク

技能五輪競技風景

(課題に取り組む選手達)



プラスチック金型



奥田 晶斗(110卒)Astemo(厚木)

プラスチック金型



北條 陽(109卒)日立Astemo(厚木)

プラスチック金型



椎名 慧音(110卒)日立GLS(多賀)

プラスチック金型



三代 健人(109卒)日立GLS(多賀)

工場電気設備



田中 秀貴(109卒)社会(大みか)

電子機器組立て



横山 昊聖(109卒)鉄道(水戸)

電子機器組立て



小口 心穂(109卒)HBS(水戸)

精密機器組立て



栗原 佳奈(110卒)Astemo(佐和)

精密機器組立て



軽部 祐太(109卒)日立Astemo(福島)

工場電気設備



猪口 健太(110卒)社会(大みか)

電子機器組立て



海老沼 凜乙(110卒)HBS(水戸)

旋 盤



丸山 陽(109卒)鉄道(笠戸)

旋 盤



後藤 宙那(109卒)日立ハイテク

旋 盤



関根 悠馬(109卒)日立イブ(土浦)

旋 盤



松岡 駿輝(108卒)日立ハイテク

構造物鉄工



伊藤 光希(110卒)日立産機(勝田)

構造物鉄工



飯泉 大空(110卒)原子力(日立)

構造物鉄工



谷田部 寿崇(109卒)原子力(日立)

メカトロニクス



神白 大晴(109卒)日立GLS(多賀)

旋 盤



山中 和奏(110卒)日立イブ(土浦)

電気溶接

佐藤 琉(109卒)
原子力(日立)

メカトロニクス

左: 福谷 聡太(110卒)日立GLS(多賀)
右: 役田 朔弥(110卒)日立GLS(多賀)

メカトロニクス

左: 松岡 怜良(109卒)日立ハイテク
右: 鴨川 生(109卒)日立ハイテク

メカトロニクス

左: 川部 直生(108卒)日立ハイテク
右: 大野 虎太郎(108卒)HMS

電気溶接



黒田 大貴(109卒)鉄道(笠戸)

電気溶接



大内 雄斗(108卒) HBS(水戸)

電気溶接



佐藤 拳(108卒)鉄道(水戸)

電気溶接

大内 拓海(110卒)
原子力(日立)

電気溶接



松井 颯輝(110卒)日立イブ(土浦)

電気溶接



益山 桧(110卒)鉄道(笠戸)

電気溶接



大曾根 陸(109卒)日立イブ(土浦)

電気溶接



中條 大吉(109卒)HBS(水戸)